定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb 版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第 12 回 KOBE カンタービレ・コンサート開催

2022 年 12 月 18 日、長田区文化センター別館ピフレホールにおいて、第 12 回 KOBE カンタービレ・コンサートを開催いたしました。このコンサートは、定住外国人子ども奨学金のチャリティと、奨学金について広く市民の皆さんに知っていただくことを目的として、2009 年より開催しています。コロナ禍のため、昨年と一昨年は開催できず、待ちに待った 3 年ぶりの開催となりました。

今回は、神戸市室内管弦楽団所属の幸田聡子さんのヴァイオリンと、大原亜樹子さんのピアノによる演奏を楽しみました。第一部では、エルガー「愛の挨拶」マスネ「タイスの瞑想曲」など 5 曲のクラシックの名曲が演奏され、ヴァイオリンとピアノの繊細で豊かなハーモニーを心ゆくまで味わいました。

休憩の前に、4 名の奨学生が登壇しました。N 委員の司会により、自己紹介とそれぞれが今がんばっていることなどを話しました。

第二部では、「情熱大陸」「となりのトトロより 風の通り道」そして美空ひばりの名曲など、誰もが親しみのある現代の曲を楽しみました。いつもはテレビで聞いている曲も、舞台上の「生」の音色、そして演奏している方の体の動きや表情と一緒に鑑賞することで、ずっと豊かで深い広がりを感じさせるものになりました。第二部の後半は再びクラシックへ。「G 線上のアリア」「ツィゴイネルワイゼン」など、思わず口ずさみそうになる名曲が終わると、アンコールが始まりました。

今回はアンコールに奨学生たちが登場。出演者の方の演奏に合わせて「そり滑り」を元気に歌いました。クリスマス気分たっぷりの楽しい曲と奨学生たちの歌声に会場は大盛り上がり。お客さまから大きな拍手が送られました。

終了後のロビーで、奨学生のずっと年上の先輩にあたるお客さまが、奨学生に「同じ高校よ。私の部活は〇〇で…今もあるのかしら」「私はライバル校でしたよ」などと話しかけてくださり、奨学生がうれしそうにお返事している光景が見られました。こうして市民のみなさまと奨学生が交流し、身近な存在として感じていただいている様子を見て、やはり生のコンサートを開催できてよかったな、と思いました。

ご来場いただきましたお客さま、また協力、後援、協賛いただいた方々に心より感謝申し上げます。今後も定住外国人子ども奨学金への応援をよろしくお願い申し上げます。

（T.N）

奨学生からのメッセージ

Kさん（15期生）

『部活で楽しいこと』

私は今、高校の弦楽部に所属しています。弦楽部というのはバイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスで構成されたオーケストラで、私はビオラパートに所属しています。私が部活に入ってからの 7 ヶ月間は本当にあっという間で、その間に部活内で同じ学年の人たちや先輩方と仲良くなることができました。そこで知り合った人たちはクラスが違う人もいて、もしこの部活に入っていなければ出会ってなかっただろうと思うと感慨深いです。

弦楽部はコンクールが無く、2 ヶ月に一回くらいの頻度で、学校のオープンハイスクールや地域のイベントなどで、演奏したりしています。なので、そこまでハードな部活ではなく、運動部や吹奏楽部と比べるとすごく気楽です。そのおかげで、毎日の部活が本当に楽しく、先輩や同級生とも仲良くなれ、部室でたくさん雑談をしたり、お菓子をみんなで食べたり、とても和気藹々としています。そういった時間以外にも、個人練習の時に、他パートの人と少人数で練習するのが楽しくて好きです。ハモリ具合や自分の弾いている音がはっきりと聞こえるのでお互いに意見を出し合い、調整したりして、技術の向上のために日々切磋琢磨しています。こういうところから、弦楽部に入れて本当に良かったなと思います。

そして最近部活で楽しかったことは兵庫県立高等学校総合文化祭で演奏したことです。大きなホールで演奏したのですが、 ホールでの演奏は学校より遥かに音が響き、弾いていてとても心地よかったです。自分たちの出番が終わった後は、他校の演奏を鑑賞しました。どこの学校もとても素晴らしく、勉強になりました。この兵庫県立高等学校総合文化祭が終わった後の時期は、老人ホームや保育園からの依頼演奏や、来年 3 月に行われる定期演奏会に向けて練習しています。その演奏会は、弦楽部のためのステージで、いつもよりもたくさんの曲を演奏します。なので、これからは練習が大変になっていきますが、新しい楽譜にチャレンジできるので、全く辛くなく、逆にとても楽しみなのです。

残りあと数ヶ月で私も 2 年生になり、先輩方も引退してしまいます。先輩がいなくなってもうまく演奏できるように、日々練習を重ね、上手になっていけたらなと思います。

Rさん（15 期生）

『過年好ノ新年快来!!』

私の新年の過ごし方について書いていこうと思います。私のルーツのある国は題名でもわかるように中国です。そんな中国の新年の過ごし方を書こうと思います。

まず、中国では2回お正月を迎えます。一回目は1月1日の年の変わり目、2回目は旧暦の 1 月 1 日でお祝いをします。旧暦の日付は毎年違って、だいたい1月～2月の間に旧暦の日を迎えます。1月1日は、日本と違って1日だけ休みで1月2日からは通常通りみんな学校、会社に行きます。それに対して旧暦の方は、1週間程度休みがあってみんな正月を楽しみます。私はこの休みや行事への過ごし方の違いに文化の違いを感じました。私は日本に住んでいる為、冬休みの中1月1日で日本の正月番組を見て、家族と餃子を手作りでいつも作っています。手作りの餃子は大皿5皿ぐらいまでつくり、ジュースやお菓子、他

にも鯛や魚など色んな食べ物が食卓に並んでいます。また旧暦の方もお祝いはしっかりしてまた餃子を作りながら中国での新年を迎えています。こんな感じで私の正月の過ごし方を話しましたがコロナが流行する前はもっと楽しいものでした。

コロナが流行する前、自分が小学校にあがるまでは毎年冬に中国に帰って祖父母に会ったり、いとこに会ったりしました。みんな祖父母の家に集まって夜ご飯である餃子を作りながら食卓を囲んで正月番組を見て笑うのが恒例でした。他にも食後、アイスやお菓子を沢山食べてお年玉をもらったりしてとても楽しく充実した時間でした。また中国は花火や爆竹が許されており、12 時になると大きい花火や爆竹の音でみんなお祝いをします。深夜に見る花火は、6 歳の小さい頃の音の記憶でも未だに忘れられないほどキレイなものでした。コロナが流行してからは、祖父母やいとことはテレビ電話やメッセージしかやりとりが無くてとても寂しいです。コロナが流行してからは失うものが多くていやになるけど誰かを責めたり、誰かを傷つけたりすることはなく異文化理解をしながらいつかコロナが終息した時、家族、祖父母やいとことみんなで食卓を囲んで大好きな餃子を食べられる日を待っています。

Lさん（15 期生）

『忙しいと見せかけて』

「ポンポンで踊りながら英単語帳を持ち古文を唱える」と言われるほどの、高一の二学期が終盤に近づこうとしている。いつの間にかクラスの居心地が良くなり、私の毎日も「一件落着！」の感嘆と「これを頑張りたい！」で覆われている。

秋は忙しい季節だ。9 月からの日常を思い返してみると、私の 1 日のルーティンは思っているようにバタバタしていなく、ちゃんと決まっていて計画通りになっていると、今になって、はっと気づいた。高校生として鮮やかな放課後。新たな発想をいっぱいもらう日曜の ROOT での研究者生活。この二つだけに私は集中しているのだと今更整理がつく。

ここで、現在進行形ではあるが4ヶ月経った私の ROOT 生活を記憶が新たなうちに繰り返してみたい。ROOT は、K 大学が主催する国際的に活躍する科学者になる高校生を育てるプログラム。毎週日曜日に大学の教授を招いて講義を聞き、教授たちと討論する場をも設けてくださるのである。2023 年 1 月までの約半年の間で先端の科学に触れるとともに自分のオリジナルの研究提案を考え、全国から選ばれた 60 人の参加者から 20 人の研究計画がさらに選ばれ、次年度の実践ステージで教授のサポートのもとで本格的な研究活動を行える。

大学の教授にたくさん質問をして、一生懸命議論すること。

スーパー高校生と友達になり、こんなにすごい同い年がいるのだと発見し頑張るモチベーションとなること。

本当に興味を持つ分野を見つけて、先行研究の論文をたくさん読み、新しい創造をしようと踏ん張ること。

何回も教授に自分の研究のアドバイスをもらい、何回も否定されるけれども新たなアイディアを思いつく時の喜び。

研究相談をきっかけにこれからの人生で 2 度と連絡をとることがないだろうと思った人に連絡をとって現状を伺う 2 回目の出会い。

今まで想像もつかなかった経験をいっぱい積んだことで、私の当たり前が変化し、視野が広がった。日

常の振る舞いや考え方までもっとオープンになった。全てが一年後に過去形となることを知っているが今の忙しさを思いっきり楽しみたい。高校３年生になって昼か夜を見分けられない受験勉強の時にきっと自信となるこの経験。私の記憶に深く、深く刻んでいてほしいのである。

忙しい人は自分が忙しいなんて言わない。やることが整理されていて、一個ずつこなしていくことで頭いっぱいで、新たなことを楽しんでいるから。忙しいと言ったら、自分と他人の間に壁ができたような感覚がなぜかできてしまう。私は１年生の間にたくさんのイベントに参加し、青春を楽しみ、２年生で興味のあることを2つに絞って深く探求し、そして 3 年生で勉強に打ち込むと計画している。そのファーストステップが、今だ。研究課題提案書が選ばれるように、誰よりも努力していると言える自信をつけたい。それが現時点で一番大切なこと。

O さん（14 期生）

『修学旅行感想文』

秋が深まる 11 月は次第に涼しくなり、秋風に吹かれた落ち葉と共に、楽しみにしていた高校 3 年間の中で最も盛大な行事―3泊4日の修学旅行を迎えた。

私たちの学年は、一年中ずっと夏のような気候で景色がよく、熱帯気候に囲まれた沖縄に行きます。

初日は平和学習です。ひめゆり平和記念資料館や沖縄県平和記念資料館には思わず目を背けたくなるような写真や胸が痛くなる話がありました。但しそれは僕たち人間が犯した事実です。平和の碑には、多くの幼い子どもの名前やまだ名前がつけられずに亡くなった赤ちゃんも碑に彫られているという話も聞きました。幼い何の罪もない子供たちの命をも奪ってしまう戦争の恐ろしさを学びました。この日の見学で一番学んだことは戦争の悲劇と平和のありがたさでした。

翌日、僕たちは船を乗って本島周辺の小島に行ってマリンスポーツを体験しました。普段ガイドブックやテレビなどで沖縄の美しい海をよく目にしますが、自分の目で近くから見る海は、写真や映像で見る海を越える美しさでした。シュノーケリングでは、海底の景色も見ることができます。とても澄みきっていて見渡す限り鮮やかなサンゴ礁群が広がっています。とても調和のとれた美しい景色でした！バナナボートでは、涼しい海風を浴びながら海でサーフィンしているような感じでした。とても刺激的な体験でした。

3 日目は沖縄タクシー研修で、僕は熱帯の香りが漂うパイン園に行きました。パインの品種、成長過程、栽培方法などを見学しました。次はガラス工房に行って自分がデザインして手作りする体験をしに行った。制作するのは難しいですが、最後まで自分の力で作れたのでとても達成感がありました！最終目的地は沖縄の鍾乳洞に観光に行きました。鍾乳洞といっても歩きやすいように道が整備されていますし、いろいろなライティングで鍾乳石を照らし、何かに見えるような鍾乳石には名前がつけられていたりして見所満載でとてもきれいです。

時間はあっという間で僕の三泊四日の修学旅行は終わりを迎えていました。これは僕の高校生活の中で一番楽しかった旅行でした。僕の人生の中に短いが鮮やかな記憶を持ってきてくれました。

M さん（14 期生）

『10 年後の私」

「10 年後の私は何をしていますか？」最近、こう言った考えがずっと頭の中でぐるぐる回っています。十年後はもう、二十七歳。社会に出て働き、立派とは言えないが、堅実に仕事をこなして、おそらく、結婚もしているはずだ、と私は思う。今の私は勉強にも追われて、まったく、自分がどのような大学に行けるのか、自分の将来の道を見えていません。十年後の私はもう見えているのでしょうか？

自分は高一の時から入っていたラグビー部を一生懸命やっていました。体格は良いものの、本当に走りとかもできないし、経験者でもないし、何より不器用なので、先輩や先生達にもいっぱい怒られて来ました。でも、その時は、「部活だけをやっていれば、それでいい」と考えていました。怒られても、それを気にせずに、自分のプレーを磨き、ストレスに耐えて、悲しいことも嬉しいことも仲間と分担しながら、頑張ってきました。しかし、半年前に一番頑張り屋の A さんが部活を辞めた時に、私は怒りと悲しさが混合したような複雑な気持ちに襲われました。「一緒に頑張ろう」と言っていた彼の言葉が嘘のように感じられました。そして、私はずっと溜めていたストレスにとうとう耐えきれずに、初めて部活を辞めようと思いました。その時に、初めて私は真剣に、未来について考えました。絶対言わないであろう言葉を先生に言い。3 日前にこの大好きだった部活動を辞めました。この出来事に未来の私は後悔しているのだろうか。

プログラマーになって、ゲームなどを開発して、大金を稼ぐのは、私の小さい頃からの夢である。私がまだ小さい時に、家が貧困で、パソコンがなくて、テレビしかありませんでした。その時に、学校の友達がゲーム機でゲームをしたり、まんがを読んだりして、周りとわいわい喋っている時に、私は何もなくて、ずっと一人で、教科書を読んで過ごしていました。悲しさにも勝る寂しい気持ちが私を襲いました。その時から私は絶対に、プログラマーになって、金持ちになると誓いました。未来の私は、この誓いに似た夢をかなえているのでしょうか。

私は後悔をするようなこともいっぱいしました。例えば、小学校の時に、知らずに他人の箸を使ってしまって先生に怒られたとか、好きだったあの子に、最後ぐらい自分の気持ちを伝えられたならとか。その種々の後悔を私は今でも覚え、過去に戻って変えたいと思っています。未来の事など、到底、今の自分じゃ何もできない。だから未来が恐ろしくて、道が見えない。それでも、人生を歩んで行かなくてはならない。「今日は死ぬには良い日だ」これは私の大好きな言葉で、意味は「いつでも死んだ日が素晴らしかったといえるよう毎日を大切に生きよう」です。私の人生もこの言葉のように生きられるように、未来を恐れず、今を生きたい。

M さん（14 期生）

『長所と得意なこと』

私の長所と得意なことについて書こうと思います。

まず、長所についてです。私の長所は、思っていることを素直に言えるはっきりとした性格なところです。私は何事でも、すぐに決めてしまいたい性格であまり迷ったりしません。買い物に行った時も割とすぐに買う物を決めることができるし、友達と思っていることが違っても人の意見にながされないように自分の意見を伝えられます。でも、その長所は短所になるときもあります。まず、自分以外の人が迷っているときに急かしてしまうときがあります。自分が早く決められたからといって相手も早く決められる訳じゃないのにどうしても急いでほしいと思ってしまうことがあります。また、相手と意見が違ったときに、自分の意見を素直に言いすぎてしまうことです。自分の意見が正しいと思っていても、相手の言いたい事や、相手の気持ちを理解しようとすることが大切で、自分の言動で相手が傷ついてしまうこともあります。なので、長所で

もあるけれど相手の受けとり方によっては短所にもなってしまうので、もっと自分以外の人の気持ちをよく考えて短所になってしまわないように気をつけて行動していきたいなと思います。

次に私の得意なことについてです。得意なことは2つあって、一つ目は中学生の頃に部活でしていたソフトボールで二つ目は高校の部活で始めたギターです。ソフトボールは、初めは正直そんなに強くやりたいと思っていませんでした。でも、続けていくうちに、どんどん楽しくなっていきもっと上手になりたいと思えるようになりました。中学 3 年生になると、重要な役割であるピッチャーを任され最後の大会まで、投げ続けられました。2 つ目の得意な事であるギターは、中学校からずっとやりたくて軽音楽部に入部しました。はじめは指も痛くて全然思っているように弾けなかったけど、今では自分のやりたい曲に挑戦できてある程度弾けるようになりました。けれどまだ全然自分で納得できるレベルではないのでもっとこれからも頑張っていきたいし、また他にも色々なことにチャレンジしていきたいです。

D さん（13 期生）

『自分の長所、得意な事』

私が考える自分の長所は、好奇心が旺盛で、興味を持ったことがあれば、すぐ実際に試してみることが多いことです。そうすることで、様々な経験を積み、いろいろな方たちと関わることが好きです。例えば、様々なコミュニティに自ら参加し交友関係の輪を広げることが得意です。日々の生活の中で、何かに興味や関心を持って意欲的に行動することは、人生において大切なことだと思います。また、その行動から人脈も広くなっていくので、たくさんの人に出会い、知識を得えて自分の可能性も広げていくことができます。新しいことに興味を持ってチャレンジすることは、それだけで自分の自信につながります。ですが、すべて成功するわけではないので失敗しても持ち前の好奇心を活かして、また新しいことにどんどんチャレンジしたいと思っています。そうした取り組みが経験となって、自信にもなると思います。また、経験したことに対してやるからには、最後まで追求したいという思いがあり、一つの物事ができるようになったら、それに付随したことやステップアップしたことなども視野に入るようになり、それもやってみたいというようにつながっていきます。例えば、私はピアノを弾くことが趣味なのですが、ピアノを練習するという追求はもちろん、ピアノが弾けるようになったから、他の楽器にも挑戦したいと思い、最近では少しずつギターを練習しています。自分自身たくさんの可能性を持っていると思っているので、一つの物事だけで現状に満足するのはもったいないと考えています。ピアノは趣味で続けていきたいと思っているけど、もしかしたらギターも楽しいかもしれない、と色々考えて挑戦しています。失敗も経験だと思うので、これからもいろいろな事に興味を持って積極的に行動して、自分が後悔しないように日々を楽しみたいと思います。

O さん（13 期生）

『私と文芸』

私は高校二年生から高校三年生の夏までの間、文芸部に所属していた。主な活動内容は、年に五回

発行される部誌に寄せるための作品の執筆、そして、夏の県の総合文化祭や全国コンクールへの参加である。勿論執筆そのものは好きな場所で出来るから、活動の場所は極めて自由だ。紙を広げて筆を取ったなら、もうその瞬間から活動が始まる。そんな自由度の高さも、他の部活動には無い、文芸部ならではの特徴ではないだろうか。

部員達は、先輩も同輩も後輩も、皆本当に優秀な人達ばかりだった。彼等が綴る、個性と創意工夫に溢れる十人十色の作品に触れるのは、とても刺激的な体験で、そうして仲間達に触発されながら、文芸を通じ、私も自分なりの文章の形を追求してきた。今回は、その中で私が感じていた事を書かせて頂きたい。

文章を書く、そしてそれを一つの作品として成立させるという行為は、私にとって、相当な気合いと覚悟とを伴う行為である。文章を書き進めていると、まず、自分の文章が、文法的に間違っていないかを徹底的に睨んでいくことになる。それが人の目に触れる作品なら尚更だ。使おうとしている単語の意味を勘違いしていないか、どのような語順にすれば読みやすいか、敢えて漢字を使うか、平仮名を用いるか、等々、一行の文を書くにも色々な事を考える。そんな中で、小説を書くという行為は、自分が使っている言葉、言語そのものと向き合う行為なのだという理解が、一つ私の中に生まれた。そんなの当たり前だ、と思われるかもしれない。しかし、私は文芸部に入るまで、自分の母語である日本語に思いを巡らせたことがなかった。そして、文芸部での活動を通じて、私は初めて日本語と対峙し、自分の手で言葉を綴る中で、その美しさを思い知った。日本語は、煩雑で、冗長で、だからこそ壮麗で、驚く程柔軟性に富んでいる。このように、文芸は、私に母語を愛する事を教えてくれた。

それだけでは無い。私にとって文章を書くという行為は、自身が抱える美学や思想傾向に向き合う機会、即ち、自分自身を見つめ直す機会でもある。自分は日頃何を思い、感じ、考えているのか。文章を通じて自問自答し、心の底の沈殿を拾い集めて、自身の気持ちに整理をつけていく。この過程が軸となり、物語の世界観が、登場人物達の個性が展開していく。私が思うに、確固たる「自己」が無ければ、物語を生むことは出来ない。小説を書くようになって以来、私は、自分が抱える美学や思想傾向に意識を向けることが多くなった。そして、このような文芸部員としての経験が、私の高校生活における自己形成に大きく寄与してくれたと思っている。

これから私は、文芸にどのように関わっていけるだろうか。先ずは、本当は引退前に完成させたかった未完のストーリーや、途中まで書き進めて眠らせてしまった幻の作品を供養してやりたいし、大学に入ったら、また文芸部に入部してもっと色々な書き手に出逢ってみたい。そして何よりも、私は、より良い文章と表現の為に、沢山の人生経験を積みたい。その先で、自分が想像することすら出来なかった程の成長と変化を経て、また新しい文章を書けるようになっていたいと思う。

Mさん（13期生）

『最近読んでいる本について』

今年に入って、僕は以前と比べて本を読むことが多くなりました。今まで、本は読まないといけないものという意識がどこかにあったせいで、あまり読む気にならないことがよくありました。しかし、音楽のインスピレーションを受けるために色々なネットの記事などを読んで、様々なジャンルの本にも興味を持つようになっていきました。そして今では、本も娯楽の一種として楽しめるようになっていきました。

僕が今読んでいるのが、「ただしい人類滅亡計画　反出生主義をめぐる物語」という本です。この本は、対話形式の倫理哲学小説で、本の大部分をセリフのみで構成されているのです。

この本のあらすじを説明します。ある日「魔王」と呼ばれる全能の存在が目を覚まし、人類を滅ぼすという使命を背負うことになります。しかし魔王は理屈っぽい性格で、なぜ人類を滅ぼさなければならないのか疑問を抱きました。そこでランダムに人間を 10 人呼び、人類が滅ぶべきかどうかを話し合わせ、自分を納得させるように指示します。全く思想の異なる 10 人の人間が本当に人類は存続する価値があるのか。そういった対話を繰り広げるというストーリーです。「人間は生まれてこない方がいいし、生まない方がいい。ゆくゆくは地球上に意識のある生命はいなくなった方がいい。」という反出生主義的な思想を主張している本なのです。

僕は、この本を読む前まではもちろん、そんな思想は真っ向から反対の気持ちがありました。しかし読み始めてから、僕は反出生主義の考え方は論理的には正しいと思うようになりました。だからといって、僕が「人間が滅びるべきだ」と思うようになったわけではありません。僕は、こう言った考えを少しでも少なくするため、私たちで少しずつでもより良い世の中を作って行くために、身の回りの環境に配慮をしたり（ゴミの分別する、ポイ捨てをしない、など）、一人一人の考えの違いを認めあったりすると言った、SDGs 達成に向けた努力をすることが本当に大切なのだなと再確認しました。何百年後も何億年後も、人間が伸び伸び暮らしていけるような世界を作っていきたいと考えています。

Sさん（12 期生）

『高校 4 年間を振り返って』

高校 4 年間を振り返ってみたいと思います。

1 年生の 4 月に入学した時、「授業は楽しいかな？」「学校行事は楽しいかな？」とドキドキしていました。初めての行事は、体育大会でした。楽しかったです。次が文化祭でした。私のクラスはポップコーンの出店をしました。初めのうちは全然お客さんが来なかったのですが、頑張って売ったので最後には完売しました。大満足でした。授業は、いつも緊張していました。この 1 年間はすべてが初めてのことだったので、緊張の 1 年でした。

2 年生になるとコロナの感染拡大とともに、緊急事態宣言が出て、学校が休みになってしまいました。学校行事（体育大会、文化祭、校外学習）も中止となりました。その後も学校へ行くのは時々となりました。この 1 年はいろいろなことが中止になった 1 年でした。

3 年生になりました。変わらず学校行事は全部中止でした。授業は普通に対面で行われました。授業はあるけれど、楽しい行事は無いという残念な 1 年でした。

4 年生になりました。4 年生になった時、あと 1 年と思いましたが、同時に「長い！」と思いました。でも 2 年ぶりに体育大会があり、思う存分楽しみました。修学旅行は三重県と滋賀県に行きました。ナガシマスパーランドと琵琶湖で友達と楽しい思い出ができました。今年の体育大会では 4 年生で綱引きをしました。自分のクラスは負けたけど、でも楽しかったです。続いての文化祭も 2 年ぶりでした。先生のクイズをしたり、隣の学校から生徒たちが来て歌を歌って、ダンスを踊っていたりしてとても楽しかったです。

あと期末テストと卒業試験が残っています。残り 2 回のテスト頑張りたいと思っています。実際に

登校するのは、1 か月になりました。

入学したときは 4 年間頑張れるかなというのが、一番心配なことでしたが、ここまで来ました。家族や友人の励ましがあって頑張れました。感謝しています。

今やりたい仕事をするために、就職活動をしています。高校を卒業してよかったと思えるように、早く仕事が決まるように頑張ります。